

平成21年度 第1回磯子区地域福祉保健計画推進委員会議事録

開催日時	平成21年6月22日（月）午後6時30分から午後8時20分まで
開催場所	磯子区役所 701号会議室
出席者 (敬称略)	<p><委員></p> <p>吉田修（委員長）、鈴木伊三雄（副委員長）、佐々美弥子（副委員長）、 瀧本篤、関いづみ、上杉惇、福士市子、三澤繁次、水越尚登、 堤幸雄、田辺実、関野芙美子、小宮山滋、矢野菊江、嘉代哲也</p> <p><オブザーバー（ケアプラザ）></p> <p>天野裕美子（磯子）</p>
欠席者 (敬称略)	石川辰夫、濱田歳久、時任和子、岩瀬すゑ、大平清子、野田良二
事務局	<p><区> 宇賀神センター長、斉藤担当部長、佐藤こども家庭支援課長、戸塚福祉保健課長、 中村運営企画係長、森田地域力推進担当係長、柴原、伊東（秀）、伊東（ゆ）、近藤</p> <p><区社協> 内藤事務局長、中島次長、並木</p>
議 事	<ul style="list-style-type: none"> ・ センター長あいさつ 次期計画の策定に向けた今後の進め方についてご意見をいただき、今後活かしたい。 ・ 新任委員紹介：磯子区医師会、瀧本委員。磯子区中学校長会、石川委員。 磯子区福祉保健活動推進委員会、田辺委員。 <p>1 議 題</p> <p>(1) 各地区の取り組みについて（説明者 中村係長）</p> <p>(2) あなたの提案実現事業及びしあわせバンク事業について（説明者 中村係長）</p> <p>吉田委員長 : あなたの提案実現事業のうち、20年度新規申請団体の2年目の取り扱いは、 どうなるのか。また、しあわせバンクは20年度は周知段階ということで、あ まり人が集まっていないとのことだが、21年度も引き続き実施していくう えで、どのように人を集めていくのか。</p> <p>中村係長 : あなたの提案実現事業の20年度新規の1件は、経過措置として21年度も引 き続き申請可能としたので、今後申請していただく見込みだ。しあわせバン クは当初から個人と個人のマッチングは難しいので、なんらかの団体を紹介す る発想で進めてきた。根岸地区内の団体の中では交流会等を実施してきた。21 年度も引き続き地域での地道な打ち合わせを通じて実施方法を考えていき たい。</p> <p>(3) 今後の計画推進と第2期計画の策定について（説明者 中村係長）</p> <p>三澤委員 : 次期の委員構成だが、半数以上が同じ人になってしまうとマンネリ化してしま う恐れがある。そこを考慮して人選して欲しい。また、体育指導委員代表とし て参加しているがこの立場で発言することはない。各地区から参加するという 考え方はいいと思う。</p> <p>中村係長 : これまでは体育指導委員としての意見を受け止められる事務局体制になっ ていなかった。この点を改善するために、委員に総務部を代表して地域振興課長 を加えた。 また、事務局にも地域力推進担当（地域振興課）を加えて区役所全体として</p>

計画を推進していくつもりだ。

吉田委員長 : 各地区から誰を代表として選ぶのが難しいという声もあるが事務局としての考えはどうか。

戸塚課長 : 各地区の代表と連合の代表が重複することもあると思う。地域の意見を聞きながら決めていきたい。

吉田委員長 : 昨年度のグループワークでも、どの会合でも同じ顔が集まるとの意見があった。そうした中で中心となるのは地区社協と思うが、このことについて何か意見はないか。

戸塚課長 : 地域の代表の構成については、皆様方の意見等を聞きながら決定していきたいと考えている。

三澤委員 : 地区から選び出すのはいいと思う。この3年間、各地区でいろいろなことをやってきている。5年計画のなかで、全部を新しくするのは難しいが、新しい見方が出来るのはいい。

佐々副委員長 : 第2期の策定委員案で、子どもの問題を代弁する団体をどこで考えているのか。

戸塚委員 : 地区代表の中やボランティア団体・市民活動関係団体等に含まれると考えている。

佐々副委員長 : 地区代表の中に意見が反映されるか難しい部分もあるのではないか。

中村係長 : 力を入れたいのは地区別の計画であり、地区の中に様々な人が入って話し合いができるよう支援できればと考えている。

鈴木副委員長 : 地区懇談会は、1期と同じ形になるのか。

中村係長 : 同じとは考えていない。1期では、自由に出された発案を実行する段階でも苦勞したこともあると聞いている。各地区の特徴にあわせていろんな形があっというと考えている。

鈴木副委員長 : 地区懇談会はこういったメンバーを考えているのか。

中村係長 : 現段階では具体的なことはまだ決めていない。各地区でどうすれば、地域の力を最大限活かせるかを、これから各地区を回って話し合っていきたい。

鈴木副委員長 : テーマによって課題やその解決方法が異なる。地域にとって大きな問題の防災や防犯・青少年等がテーマとなれば、課題も多くきりが無い。そういった意味でもテーマや対象は重要だと考えている。

関委員 : 第1期と第2期の繋がりがどうなっているのか。根岸のしあわせバンクはいい取り組みと思っているが、新しい計画でどう引き継がれていくのか。これまで築いたものを無駄にしないようにしてほしい。

中村係長 : これまでの地区社協や支えあいの活動とスイッチONの活動の調和がうまく取れていなかった。こうした既存の福祉活動を踏まえた上で、各地区の取り組みを継続していければと思う。

堤委員 : 商店街の代表として、地域の活性化を考えて出席させていただいているが、計画を立てる方の意見ばかりで、受ける側の意見が反映されにくい。受ける人の意見も反映する仕組みが必要だ。

戸塚課長 : 個別の意見も聞く機会も作っていかなければいけないと考えている。いかに意見を吸い上げていくかが課題で、今後検討が必要と考えている。

- 佐々委員 : 1期から2期に向けて、評価をどこでどのようにするのか。1期の振り返りの上に立った第2期計画ではないのか。
- 中村委員 : 添付資料3-5と3-6で3年間の振り返りアンケートのとりまとめをしております、これもひとつの評価だと考えている。地域福祉保健計画は箱物をつくる計画とは違うので難しいが、評価の仕方について検討していきたい。
- 三澤委員 : 当初5年間、自分達でできる目標を立ててやってきた。出来たものは継続していき、出来ないものは検討していくことになる。予算もそうした取り組みを行っていく上で、地区社協、支えあい、スイッチONが入り交じっているが、補助金は、他の補助金と同時に使えないものが多い。総合的に計画を進めていく上で、そうした実情も踏まえて次期計画は考えて欲しい。
- 佐々副委員長 : 第1期の課題を第2期にどう引き継ぐか。これまでの委員の経験や感じたものを第2期へまとめた形で渡せるようにしてほしい。
- 吉田委員長 : 基本計画は5年ごとに見直ししながら社会にあったものにしていく。その基本には1期計画との整合性もあると思う。また、評価をすることは、大切と思うが、計画立案者側と計画参加者側がある。参加者の意見をどうやって吸い上げるのが課題であるが、これを地域の策定委員会で出来れば大きな成果となると思う。また、中央の策定委員会は人的な制限もあり20人+αが組織としてはやむを得ない数と思うが、冒頭であるように地区計画を中心として考えるのであれば、地区の策定委員会に地域の英知をどうやって集めるかが、2期計画を策定する上で大事と思う。なお、2期計画は、策定委員会が推進委員会に移行すると考えていいのか。
- 宇賀神センター長 : 第2期計画はまるっきり新しいものを作るのではなく、第1期計画を踏まえ、その振り返り等をおこなっていく中で各地区毎に次期計画を検討していくものと考えている。区民意識調査等で得られた意見も地区での検討の場にフィードバックしていきたい。また、計画の評価という点から、2期計画の策定委員会を推進委員会へと移行していくのが自然かと考える。
- 吉田委員長 : 今後のスケジュールは。
- 中村係長 : 7月9日に正副会長会を行う。その後、10月の策定委員会に向けて、各地区に委員の推薦をお願いしたいと考えている。その間に地区懇談会の実施方法などについて各地区の方々と意見交換をしていきたい。
- 吉田委員長 : 市の計画で大きく変わったところはあるか。また、市の計画と区計画が上下関係のように縛られることはないか。
- 戸塚課長 : 市計画で大きく変わったところはないと聞いている。なお、市計画は区計画を支援するものであり、縛られるようなことはない。

・担当部長から閉会のあいさつ